2012 年４月号　　第２８号

NPO通信

理事長あいさつ

ＮＰＯ法人かわさき市民アカデミー理事長　　藤嶋　昭

平成 24 年度前期のかわさき市民アカデミーの講座及びワークショップもいよいよ４月９日（月）から約４か月間にわたり始まることになりました。

かわさき市民アカデミーは、ご存じとは思いますが、市民が生涯にわたる学習と社会参加を通して、より豊かな人生を開拓し、積極的に生きることを支援するとともに、新たな文化と活力ある地域社会の創造をめざす市民のための学習機会を提供することを目的に、平成５年秋に開講しました。

今年は 20 年目となる記念すべき年であります。

アカデミーの運営は、当初、現在の（公財）川崎市生涯学習財団が運営しておりましたが、19 年４月に市民・受講生が中心になり「市民による運営」を目指して、「ＮＰＯ法人かわさき市民アカデミー」を設立し、市民の皆様と財団及び行政が力を合わせ、協働で事業を進めてまいりました。

５年目の昨年度からは、運営のほとんどをＮＰＯが行うことになりました。今後とも財団とは協働でアカデミーの運営を行ってまいりますが、講座等の運営が円滑に行われるよう、特に、会場の確保や、広報等につきましては、今後ともご協力いただくことになっております。

受講者の年間延べ人数は、22・23 年度の２年間は 6,000 名を超えております。　講座によっては教室の制約等による定員オーバーのため、抽選を行いお断りしなければならない状況でした。　今回も 47 講座・ワークショップ中、11 講座・ワークショップで抽選を行い約 200 名の方々に対して残念ながら、お断りせざるを得ませんでした。今後は、受講生の皆さま方の講座運営面等への積極的な参加により、また、ご要望などを講座等のカリキュラム編成にも生かさせていただいて、アカデミーの更なる発展を目指します。

受講生のつどい

本年度も“受講生のつどい”が 3 月 16 日に生涯学習プラザ 401 教室で開催され、140 名以上の方が参加なさいました。受講生相互間とコーディネーターの先生方との懇親の場として企画されてきましたが、今年度はヴァイオリニストの大谷康子さんをお招きして『お話と演奏』をお願いしました。コーディネーターのお話を伺った後は、和田学長差し入れのお菓子を食しながらなごやかな歓談の場になりました。また、今年度は新百合会場世話人の皆様が心をこめて制作された『新百合会場の紹介』映像も放映されました。新しい企画を組み込みながら楽しい催しにしてゆく為に工夫を凝らしてまいります。

NPO 新中期経営計画と実績（その３ 広報活動について）

新中期計画の実現、財務の健全化は受講生数に支えられています。22 年度の新中期計画準備期間より、広報部を立上げ、川崎市民に「かわさき市民アカデミー」の輪を広げることを第一義に掲げ、皆さんと取組んだ募集活動で延べ受講生数が年間 6,000 人に達し、23 年度も確保できました。出会いを大切にしましょう。

		21 年度実績	22 年度実績	23 年度実績	24 年度見込
延べ受講者数		5,158 人	6,082 人	6,013 人	6,200 人
受講生数	総受講生（平均）	1,643 人	1,870 人	1,905 人	2,000 人
	新規受講生	717 人	889 人	760 人	800 人
一人当り受講数		1.6	1,62	1,58	1,62
広報物（年間）*1	新聞折り込み	280 千部	316 千部	480 千部	430 千部
	施設置場配布　*2	14 千部	22 千部	24 千部	28 千部

*1 広報物：受講生募集案内＋説明会募集案内チラシ　　*2 施設置場には他に個別チラシを配布

具体的な活動

月一回の広報部会を軸に下記の活動を実施しています。

①受講生説明会の実施：《参加者数は各期：72 名～154 名でアンケートでは受講予定は約 90%》開催場所は麻生市民館・多摩市民館・高津市民館・中原市民館・ミューザ川崎です。

②募集チラシは新聞折込みとチラシ展示場配布とチラシの消化補給、締切後の追加募集も実施しています。チラシの配布先：市内公共施設、行政機関、企業、市内在大学（12 校）、川崎周辺市外の地域センター、市内 NPO 団体、受講生有志による自治会網の活用など

③出前告知：かわさきコンパクト、川崎地域連合労働組合、川崎商工会議所、川崎市産業振興財団、企業社友会など

④情報誌掲載：「Stage　UP」、くらしの窓、朝日マリオン、新聞（神奈川・東京・毎日・朝日）

⑤Web 広報（ホームページの活用）：《（財）川崎市生涯学習財団、かわさき市民活動センターポータルサイト、社友会ポータルサイト、NPO 法人かわさき市民アカデミー　など

⑥公共施設チラシ置場のチラシ混在の中、アカデミーの専用チラシラックを市内市民館、図書館に設置し（12 ヶ所）チラシの配布を促進しています。

⑦各種アンケートから募集媒体の調査を積み重ね、有効な広報手段を収得し、今後の作戦計画に活用しています。2012 後期からは広報事業の効率化を実施していきたいと思っています。

2012 年度前期　受講の皆さん歓迎！！！
新百合短期集中講座の開催や地域協働講座での当日受講制度もスタート
3,100 を超える出会いを大切に！　学ぶ喜び、深まる生き方

＊音楽Ⅲ講座　「日本音楽の流れ　―古代より現代へ」中止のお知らせ

講師山川直治先生、病気治療のため急遽講座を中止とさせていただきました。既に受講料をお支払いいただいていた受講生には受講料を返金させていただきました。講座にお申し込みいただきました皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

＊事務局人事異動のお知らせ

今年度から事務局長が市川邦彦から関智義に代わりました。どうぞよろしくお願いします。

講座・ワークショップ紹介　　第 6 弾！！

美術Ⅱ　講座　　◇金曜日　10 時 30 分～　　◇新百合 21 ビル

「ギリシア神話を描く　－神話図像学への誘い

武蔵野美術大学教授　篠塚千恵子

人が遠い昔に洞窟の壁絵を描いてから「描く人」「見る人」が絶え間なく存在してきました。そこで美術史が形成されたと思います。そして「養護する人」（パトロンですね）「研究し解説する人」（キュレーター？講師？）も昔から存在していたようです。バザーリのように。

ここに「見る人」とリンクしている「美術史を学ぶ人」の存在は？
私達はまさに「美術」と「人」をテーマに、浮遊（サーフィンのように？）してきたように思います。「印象派」を学んで「絵画展」をより楽しいものとし、「キリスト教絵画」を学び「巡礼の旅」に思いをはせました。

「ギリシア神話」では？

講師の篠塚千恵子先生からのヒントです。「ギリシア神話は西洋美術ではやはりキリスト教と並んで、最もよく主題にされる物語なのです。長く語り継がれ芸術全般に主題とされ続けているというのは、普遍的なものが溢れるほど詰まっているからだと思うのです。背後にある深い深い精神性、人間性、これは日本人にも響いてくるものがあると思います。美術史講座から、音楽その他の芸術ジャンルに広っていくのは素晴らしいことだと思います。美術はそれのみで独立しているわけではありませんから。芸術のさまざまの領域、音楽、文学、演劇 等々と相互に影響し合って、さらには政治や経済とも複雑に絡み合っているものです。」

「ギリシア神話の講座？難しそう・・」とちょっとひいてた、あなた？
なんだかわくわくしてきたでしょう？

音楽Ⅱ　講座　◇木曜日　午前 10 時 40 分～　　◇新百合２１ビル

「映像とともに　モーツァルトの名曲・名演を聴く　－器楽編―　」

日本モーツァルト研究所所長　　海老沢　敏

モーツァルト研究での世界的権威である海老澤敏先生による音楽Ⅱ講座（通称”モーツァルト講座”）は毎回２００人もの受講生が集まる「かわさき市民アカデミー」の看板講座です。この講座は１９９９年から続いていますが毎回魅力的なテーマが取り上げられ、固定的な海老澤ファンだけでなく、モーツァルトファン、音楽ファンが熱心に先生独特の柔らかい語り口で時折ユーモアも交えた講義を聞き、映像やＣＤでモーツァルトを楽しんでいます。

また昨年は講座の一環として演奏家による実演コンサートも行なわれましたが今期も予定されており、生演奏を間近かに聴けるのもこの講座の魅力の一つです。

今期は「映像とともに　モーツァルトの名曲・名演を聴くー器楽篇ー」と題するテーマで、ピアノ、ヴァイオリン、弦楽四重奏曲、交響曲などのジャンル毎に先生の解説付きで名曲、名演を聴くことが出来るため、音楽ファンだけでなく普段は音楽をあまり聴かない人でも足を運びたくなったに違いなく、230 名を超える多数の方々からの申込みを頂戴しました。

海老澤先生の汲めども尽きぬモーツァルト談義がこれからも長く続けられることが受講生の願いであり、この講座を通じて多くの方々がモーツァルトファンになっていかれることを期待しています。

エクセレントⅡ　講座　　◇金曜日　午後２時～　　◇新百合２１ビル

「日本国天皇伝　－古代・中世編」　　**日本大学教授　　関　幸彦**

2012 年度講座「エクセレントⅡ」は１年間を前提に半期 12 コマ、年 24 コマの「日本国天皇伝」である。

現在の日本の平成天皇は、初代神武天皇から数えて 125 代と言われている。　日本の天皇は血統をベースに相続され、中国の易姓革命やヨーロッパの力による地位の剥奪等とはまるで異なる。その万世一系と言われる一系がおそらく 1700 年程の間途切れることもなく継続されたことは、日本の天皇の諸外国の君主に対する凄い特性である。

無論、この間「天皇」の性格は時代により相当異なる。７世紀の天皇中心の国家建設、平安末期の武士の台頭、鎌倉幕府以来の武士政権の時代、そして明治維新の王政復興等々。

まさに天皇は日本歴史を映す鏡である．天皇講座は天皇の視点からの日本歴史論である。ただ、一貫して言えることは、７世紀～明治の間，天皇制には常に「律令制」がバックボーンにあったと考えられる。武家政治の時代に「権力」は天皇にはなかったが、「権威」が常に天皇にあったということである。清盛も，義満も、信長も、家康も誰も天皇家以外は天皇になれなかったことがそれを実証する。

2012 年度講座「日本国天皇伝」は、諸外国の君主、皇帝等との比較で日本の天皇の特異性を考え、日本という国を考える講座である。関幸彦先生の名講義と共に期待したい。

『編集後記』　**清水へ祇園をよぎる桜月夜　今宵逢う人みなうつくしき**

こんな気持ちをもう一度持ちたいものと願っています。2012 年度前期の開講を迎えられたことを喜ぶとともに、一層気を引き締めてアカデミーの運営を担ってゆきます。

受講生の皆様からのご意見とご支援をお願いします。

編集責任者：折居　晃一、田辺　初子、　眞田　強、　笹子　まさえ